江北の四季

令和２年
4月25日
第4号

○滋賀県もコロナ感染者が少しずつ増加し、ますます外出しにくくなりました。皆さんはいかがお暮らしでしょうか。過日、姉の家にお米を取りに行ってきたのですが(姉の家は農家なので秋に我が家の一年分のお米を購入し、その内の半分ほどは夏の熱気を避けるため、お米用の冷蔵庫に預かってもらっています。)、姉夫婦もほとんど外出できなくなり、夫婦でいることが増えたとぼやいて?いました。

ネモフィラ
3号で抜けた写真

白山吹

そこでの会話です。「畑があってよかったわ。なかったらすることもない。」全く同感で、日頃は「草が草が」とぼやきの対象ですが、このコロナ渦の中、なんとか退屈もせずいられるのは畑のお陰です。現役の方は仕事が大変だと思いますが、リタイア組は様々な地域の役職や趣味のサークルに生きがいを感じていたのが、何もかもが自粛で急になくなり、手持ち無沙汰となっています。

○数日前、非常に風の強い日でしたが、庭にも出られず鬱々としていましたので、午後自転車で運動不足解消を兼ねて、琵琶湖岸を奥びわスポーツの森まで往復してきました。風上に向かって漕ぐので大変です。途

中すぐに疲れて、姉川左岸の先の南浜緑地公園によりました。誰もいない所でした。ソメイヨシノは散っていましたが、二種類の桜が満開でした。私たちは誰かに見てもらいたくて生けることがおおいですが、桜は人のことには全く無頓着に咲き誇っていました。でも「今日は私が見ているよ。」と、声をかけたい気持ちになりました。人が誰もいないところでこういう一本立ちの桜の姿に会えるのは嬉しいものです。

緑地公園を後にして湖岸道路を先へ進むと、すぐにその左側の道路下に野

漆(ノウルシ)の群生がありました。全国的に生育できる環境が少なくなっているため、準絶滅危惧に指定されているそうです。私が子供の頃はこの湖岸道路がありませんでしたから、もっともっと大きな群生地でした。茎を折ると断面から白乳液が漏れ出してきます。この液に触れると漆のように皮膚に炎症を起こすので、「野のウルシ」つまり「ノウルシ」となったようです。

クリーピングタイムとクリサンセマムノースポール

知らず知らずの内に「私たちの生ける花は、到底これらの野に咲く桜の一本立ちや野漆の群生には足下にも及ばないなあ。」と思ってしまいます。では、なぜ生けるのでしょうか。自宅にいることが多くなった今日、立ち止まって、考えてみるのもいいかもしれませんね。稲垣先生が「こんな時こそ、池坊花伝書を初伝から読もう。」と言われましたが、その通りかと思います。過日の池坊の雑誌に、宗匠が「稽古とは古(いにしえ)を稽(かんがえる)」と書かれていましたが、いい話だと思って読んでいました。

クリスマスローズ

〇〇道とよばれるものはすべからく稽古、稽古ですね。(通信にしては堅い話になってしまいました。ごめんなさい。)

ニリンソウ

〇私が花を生ける一番の理由は、「生けているときは、そのことに無我夢中でいられるからです。」と、現在は答えられるようになりました。十年くらい前までは、稽古にいくのがいやでした。「月謝を払っているので行かないと花が無駄になるしお金がもったいないし、せっかくここまで続けてきたのに今辞めるのももったいないし」と、消極的理由で花を生けていた日が多かったように思います。それが、近頃は、花を生けているとあっという間に時間が過ぎてしまうようになりました。まさにその時間に没入してしまっているのです。いやいやながら稽古を積み重ねてきた(それほどはしていませんが)のは、この至福の時間に到達するためだったのかもしれませんね。

ちょっとかっこよく書きすぎました。反省!単に歳の甲羅を重ねただけかもしれません。

○之ヲ知ル者ハ　之ヲ好ム者ニシカズ
之ヲ好ム者ハ　之ヲ楽シム者ニシカズ

論語(孔子)

きっと、稽古の先にあるものは、禅の境地「遊戯三昧」なのではないかと思っています。

(あは、ますますかっこつけて書いていますね。お許しを)

ヒューケラとクリスマスローズ

○今日明日は、四月二十五日・二十六日ですね。本来なら近江湖陽会支所昇格記念花展の日です。皆さんからのお稽古の花の投稿があればぜひ載せたいと思っていましたが、皆さん恥ずかしがり屋の方が多いのでそれも難しいようです。そこで、事業部長としては本日紙上花展をすべく、昨日午後より生け込みをしました。十三時から十八時まで、無我夢中で生けたものです。

私の拙い花で恐縮ですが、お楽しみください。下手な花だと思われるかと思いますが、それは実物ではなく写真だからと思ってくださることを期待しています。

先ずは花採り。午前中に集めました。

最初に生けたのはボタン。ツツジと。投げ入れですね。玄関用です。

次に立華新風体。正風体は時間がかかので今回はパス。床の間に置きました。

小手毬、アイリス、スウィートピー、紅花常磐マンサク、黄金桑手鞠……

立て花………のつもりなのですが。

斑入り小手毬、」山吹、スウィートピー、シャガ……

生花、三種生け。のつもり。白山吹は生花新風体にするつもりで採ったのですが、生花正風体も必要かと、生けている途中で目的変更しました。途中で考えを変えるといい花にはならないなあ。

白山吹、穂先アヤメ(バビアナ)、オクロレウカ

生花新風体。

スウィートピー、姫空木、名前不明(シモツケの仲間?)

こんな感じで生えてます。色がきれいで思わず使いたくなる。立て花の根元にも使っています。

階段の踊り場に。

アイリス、イエローエンジェル(マーガレエットコスモス)、姫空木

玄関の下駄箱の上に。

山吹、椿、ツツジ

実際は上がつかえそうで圧迫感があるので、先をカットして置きました。

踊り場と下駄箱の壺、壺の下の木の板はどれも珍品堂で千円あまりで買ったものです。

バケツの花の状況です。

だいぶ疲れてきました。花が余っているように見えますが、まだ、大事な花を生けなければなりません。

これは仏壇に入れる仏様の花です。いつも花を生けた後の余り物の花です。花を生けられるのもご先祖様のお陰です。感謝、感謝。

いまは、花は趣味といいますが、昔は（父の父、お爺さんの時代）、花道楽と言っていたようです。食べるだけが精一杯の時代ですから、花なんかにうつつを抜かして、ということで花道楽といったのでしょうか。そのことを思うとありがたい時代に生まれたものです。感謝。

そして最後に、余り物の余り物が、我が家の入り口にまつっている地蔵様に行きます。

我が家の宗教は浄土真宗ですので、本尊の阿弥陀様は現世のお願いは聴いてくれません。亡き父母にお守りくださいとは願いますが、それ以上は無理です。そこで現世のお願いは神様にすることになりますが、

私の場合は、それはもっぱら地蔵様に、花を供えたときに、することになります。勝手なことで、残り物の花で、お願いをすることになりますね。地蔵様、ごめんなさい。

○今回の紙上花展、どうでしたでしょうか。悪いところは見ないでくださいね。季節の花を楽しんでいただけたでしょうか。感想をいただけたら幸いです。

○花にかかわらず、皆様の投稿を待っています。

使われるのを待っているオクロレウカ